平成 20 年 8 月 13 日

病害虫情報No.　6

茨城県病害虫防除所

斑点米カメムシ類の発生に注意してください。

［現在の状況］

① 8 月第 3 半旬現在，斑点米カメムシ類の発生は平年並であるが，一部で発生の多い水田もあり，例年発生量の少ない県西地域でやや多い（表 1）。

② 気象予報によると，向こう 1 か月間の気温は高く，降水量は少ないと予想され，カメムシ類の発生を助長する条件である。

表１　水田における斑点米カメムシ類の発生状況（8 月第 1,2 半旬調査）

地域（調査地点数）		発生地点率（%）		すくい取り虫数の平均（頭/10回振りあたり）			発生程度別地点数				
		本年	平年	本年	平年	順位	甚	多	中	少	無
県北	(29)	17	17	0.6	2.1	5/11	0	2	1	2	24
鹿行	(6)	33	34	0.4	1.3	6/11	0	0	0	2	4
県南	(19)	16	18	0.4	0.3	4/11	0	1	0	2	16
県西	(12)	25	8	0.3	0.1	2/11	0	0	0	3	9
全県	(66)	20	20	0.5	1.5	4/9	0	3	1	9	53

順位は本年を含めた過去 11 年または 9 年中の順位

［防除対策］

① 斑点米カメムシ類の防除適期は，穂揃期（対象：飛来する成虫）と，出穂期から 15 日後頃（対象：幼虫）である。穂揃期に多数の成虫を確認した場合は防除を実施する。その後は幼虫の発生を確認した場合に防除を行う。

② 本年のクモヘリカメムシ幼虫の防除適期は，7 月末～8 月初めに出穂したコシヒカリでは，県南・県西地域は 8 月 10 日～15 日頃，県北・鹿行地域は 8 月 15～20 日頃である。

③ 成虫および若齢幼虫が主体の場合は残効の長い薬剤を用いる。防除の際には収穫前日数等の農薬使用基準に十分留意する。

表 2　稲のカメムシ類の主な防除薬剤（平成 20 年 8 月 6 日現在）

薬剤名	希釈倍数	収穫前日数	本剤の使用回数	有効成分ー有効成分の総使用回数
スタークル顆粒水溶剤	2,000 倍	7 日	3 回	ジノテフランー4回（但し本田では3回以内）
MR．ジョーカーEW	2,000 倍	１４日	２回	シラフルオフェンー２回
キラップフロアブル	1,000～2,000 倍	１４日	２回	エチプロールー２回
スミチオン乳剤	1,000 倍	２１日	３回	MEPー４回（但し本田では３回以内）

今後の注意：
　現在発生がごく少ない地域でも，稲刈りが始まると，そこから追い出されたカメムシ類は新しい生息場所を求めて刈り取り前の水田へと移動します。このため，周りよりも遅くまで稲が残っている水田ではカメムシ類の密度が高くなることがあります。このような水田では発生に十分注意してください。

　農薬を使用する際は，農薬ラベルに記載の使用方法・注意事項を確認のうえ使用してください。また，薬剤散布の際は，周辺作物への飛散（ドリフト）に十分注意してください。水田において農薬を使用するときは，農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項を確認するとともに，止水期間は一週間程度としてください。